

令和7年3月発行

きつときと



アルカディア ~ 第2号 ~ だより

医療法人社団 明寿会

〒933-0133 富山県高岡市太田桜谷23-1

TEL 0766-44-8060 FAX 0766-44-8062

ホームページ <https://meijukai.com>

私たちは「認知症といえは明寿会」

といわれることを目指します。

これを法人の理念にかかげ、具体的には利用者さんや患者さんに対して以下のことに取り組んでいます。

- ・ 人生や価値観を理解する
- ・ 意思を尊重する
- ・ 個性や能力を活かす
- ・ 地域で暮らせるように支援する

また、研修への積極的な参加や、職員に向けての認知症基礎講座のコラム・クイズの発信など、基礎知識の底上げや興味関心が向くような工夫をこらし、各々が認知症のプロフェッショナルを目指します。

そして、認知症を持つ人だけではなく、介護するご家族にも、心身共に健康で充実した毎日が送れるよう支援します。さらには明寿会の職員にも、いろいろな取り組みを通して最高の人生を送れるよう努めています。

【明寿会 ホームページ QRコード】

こちらのQRコードより
ご覧いただけます



【明寿会 施設紹介動画 QRコード】

こちらのQRコードより
ご視聴いただけます



第35回 全国介護老人保健施設大会 岐阜

開催日：令和6年11月14日(木)・11月15日(金)

アルカディア氷見・アルカディア雨晴 発表要旨

発表者：アルカディア氷見看護主任

演題名：能登半島地震直後入所者への温かい入浴の効果について

副題：絶対もとに戻りたい 綱渡りの日々を乗り越えて

要旨：アルカディア氷見において能登半島地震による損壊で浴室のタイル落下がある中で、困難時こそ入所者へ温かい入浴を提供したいと奮起した職員の思いを報告する。日頃当たり前のように実施されていた入浴が、入所者にとって非常事態の中においても大切なことであり心身の安定につながり、入浴後の入所者の穏やかな表情と笑顔が震災を受けた職員のモチベーション維持にもつながったことが示唆された。

発表者：アルカディア雨晴介護職員

演題名：技能実習生と特定技能の2ヶ国の外国人材を受け入れて

副題：中国・スリランカの仲間と挑む夜勤への道程

要旨：アルカディア雨晴は、中国の技能実習生2名と、スリランカの特定技能外国人1名を、ほぼ同時に受け入れた。この3名に対し、言語サポートや生活支援、介護技術指導を実施した。タブレット端末や翻訳機の活用、OJT参加、マンツーマン指導を行った。その結果、1年後に3名とも夜勤業務が可能となり、急変時の対応も適切に行えた。今後、介護分野での外国人材は不可欠であり、なるべく早く夜勤可能レベルまで育成することが重要であると思われた。

発表者：アルカディア雨晴管理栄養士

演題名：「モバイルケア」を用いた栄養管理

副題：医療法人明寿会のDX その5

要旨：明寿会は独自システム「モバイルケア」を活用し、効率的な栄養管理を実現しています。このシステムは、介護記録やリハビリ記録、栄養ソフトの機能を搭載しており、管理栄養士は入力済み情報を引用して作業時間を短縮しています。診療所の管理栄養士も法人施設の情報閲覧機能を活用し、加算算定の支援を行っており、年間約84万円の増収に寄与しています。モバイルケアは、業務の効率化と高齢者支援に役立っており、今後は在宅生活者への栄養支援を強化していく方針です。